

津山市議会議員

政岡あきひろ

議会報告

津山市の皆様には議会活動などをわかりやすく報告し、市政に関心を持っていただくために発行しています。この報告紙は政務活動費で発行しています。



ごあいさつ

津山市民の皆様、あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になりました。本年も、よろしくお願いいたします。また、一年に四回開かれる津山市議会本会議が終わる度に作成しております「政岡あきひろの議会報告」第二十七号が、出来上がりましたのでご覧ください。

この議会報告は、新聞や広報誌、或いはYouTube等の媒体では伝えられない、生の津山市議会の様子や、議員としての私の活動内容について、わかりやすくお伝えするために作成しています。



質問の項目

さて、令和三年十二月議会では、津山市が将来にわたり県北の拠点都市として輝き続けるための、施策実施のあり方を中心に質問しました。

RX(地域のトランスフォーメーション)という経産省による取り組みを示し、津山市独自の施策をよその都市に先駆けて、実施していくことの大切さについて、市長及び執行部を質しました。

さらに、そのために必要な行政の機構改革や人材育成のあり方と、地域と学校が一体となつて取り組む人づくりの大切さについて、教育長及び教育委員会を含めた質疑を行いました。

具体的な内容

RXとは、経産省経済産業局により設立された「スマートかつ強靱な地域経済社会の実現に向けた研究会」により提唱され

ている取り組みで、令和三年六月二十四日付で、同研究会による取りまとめが示されています。

具体的には、①地域の企業・産業全体におけるDXの促進②イノベーションによる新たな価値の創出③持続可能な地域経済社会への取り組み④地域人材の確保・育成などに、一体的に取り組む考え方です。また、経産省経済産業局の役割として、変革意欲の高い事業者や地方公共団体とこれまで以上に深く連携し、新しい取り組みに果敢に挑戦していくこととしています。

私は、この「変革意欲の高い」という言葉にヒントがあると考えています。先ほど述べた四つのキーワードに基づく高い変革意欲をいち早く国に示し、手厚い支援を受けながら、地域におけるトランスフォーメーション(RX)を推進することを提言しました。

ここで、少し説明をしておきます。私は、以前にもDX(デジタルトランスフォーメーション)に関する質問をしましたが、トランスフォーメーションという言葉は単なる改革ではなく、大きな変革という意味で使われています。

現在、急激に進む地球温暖化や、依然として、収束の目途が立たないコロナ禍などを背景に、世界情勢はより持続可能で公正な経済システムの構築が急務であるとして、既存の手法を大胆に見直すグレートリセットが叫ばれています。

こうした状況下、情報通信をはじめ多様な分野で、大胆な変容や改革が急速に促されています。これに呼応し、自ら大きく変わり改革に臨む動きが、トランスフォーメーションという言葉です。現在では、DX(デジタルトランスフォーメーション)をはじめ、様々な分野で使用されています。

いずれにしても、そうした国や社会の動きを敏感に捉え、支援策や交付金を上手く活用して、津山の将来を支えるエンジンとするために、積極的に取り組んでいくことが大切です。

一方で、国が進める施策を追いかけ、他の自治体と似たような取り組みをなぞっているだけでは、じり貧になっていくことは目に見えています。やはり、他ではやっていない津山市独自の取り組みを先駆けて実施していくことが重要です。

そして、その一つの方向性として、津山が他都市より優位で



▶裏面に続く

会派未来

発行 政岡あきひろ事務所
活気ある津山へ 未来志向改革!!

〒708-0014 津山市院庄 621-2
Tel. 0868-28-0501 Fax. 0868-28-4437
E-mail masaokape@ebony.plala.or.jp

市議会の内容は津山市役所ホームページから配信しております。
URL <https://www.city.tsuyama.lg.jp/city/index2.php?id=392>

あると考えられる、歴史や文化などの地域資源を活かした取り組みがあります。私は、提言したRX(地域のトランスフォーメーション)への取り組みの中で、津山の歴史や文化を活かした新たなビジネスの創出を促進するための環境づくりの必要性を、強く訴えました。

そして、そのような本市独自の施策実施を積極的に行い、目的とする成果を挙げるためには、取り組む行政組織における機構改革が不可欠であるということも提言しました。例えば、優秀な職員が存分に能力を発揮できるように、縦割りを排して効果的なプロジェクトチームが編成できるようにすることなどです。

また、基本的に職員の一人一人が高い規範意識と倫理観を備え、市民のためにフレキシブルに仕事をするような組織作りを目指すことの重要性を訴え、様々な形態の職員教育をはじめとする、行政における人づくりの意義を質しました。

一方で私は、長年にわたる地域での活動を通して、「人さえ良ければ」何事も上手くいくという確信を持っています。また、効果的な取り組みが成果を挙げているところにも数多く視察などに赴きました。その結果、「人さえ良ければ」という確信は深まるばかりです。

そうした考え方にに基づき、人づくりの大切さについて、市長



及び教育長に質しました。とはいえ、質問時間は限られています。今回は、現在津山市で取り組みが進められているコミュニケーションスクールについて、的を絞って質問をしました。

本市のコミュニケーションスクールは、既にモデル校の東中で取り組まれています。私は、まず、そこでの課題や対応策を確認しました。そのうえで、コミュニケーションスクールを成功に導くために、基幹となる学校運営協議会の重要性を指摘しました。

地域の特性や事情を踏まえながら、教育委員会や校長の持つ教育理念がきちんと投影されるように、既存の学校評議委員などの意見を充分に取り入れ、柔軟で機能的な学校運営協議会の構築を図るよう求めました。

答弁内容

市長からは、「新たな日常」の浸透による都会から地方への流

れを的確に捉え、生産性の高い分野の雇用創出や、地域内経済循環を高めるサプライチェーンの構築、若者が安心して子育てでき、今後の成長分野で、本市の歴史や文化などの地域資源を活かして、新たなビジネスを創業してみたいと思えるまちづくり、基盤整備を進めることが、有効な手段と考えるという答弁がありました。

また、RXの動きを、将来のために発想の転換や意識改革を必要とする大きな分岐点と捉え、市全体として取り組んでいきたいという答弁もいただきました。

併せて、職員が力を十分に発揮し、組織力を最大限に高めることができるよう、人材育成と組織強化を図りたいという、機構改革への意気込みも示されました。

教育長からは、地域の将来を担う人材の育成は、本市の学校教育の使命であるという考え方のもと、地域と一体となって人づくりを進めるためにも、コミュニケーションスクール導入を着実に実行していきたいという答弁をいただきました。

終わりに(定数削減)

誌面の関係で、触れることができありませんでしたが、津山市議会では、議員会議の場で定数削減の議論が行われています。依然として、削減すべしという意見と、反対する意見が拮

抗していますが、会派未来としては四名削減を強く主張し、積極的に議論に参加しています。※私自身は、公約にも示している通り七名減の定数二十一(一委員会七名×三委員会)ですが、今回の選挙に反映させるためには、この三月議会までに議決する必要があります。多くの市民から削減を求める声を聴いています。しっかりと取り組んでいく所存です。市民の皆様も、議会における議論の行方を、十分に注視していただくようお願いいたします。

これからも、市民の思いを形にし、津山市の将来のために資する施策実施に取り組んでいきたいと考えています。今後とも、よろしく願います。

